

自ら課題を設定する力を育む指導法の研究 —学年に応じた批評文を書く学習を通して—

1. 設定理由

中学生に読むことの学習を通して身につけさせたい力として、知識や考えを広げることに加え自分なりの見解をもつことが挙げられる。そのためには国語科の学習を中心に多様な種類の文章に触れ、よりよく生きるための知恵や知識を吸収する姿勢を身につけてほしい。そこで、本研究では文章を読む際に自ら課題を設定する力を育む指導法が有効であると考え実践した。文章を読みながら自らの関心や疑問に基づいた課題を設定することで、文章を主体的に読み、内容を自分のものにしようとする姿勢が生徒に身に付いていくと考えた。

そのための学習として、批評文を書く活動が有効であると考えた。批評を通して分析し、表現して交流する面白さに気付かせたい。各学年で段階的にハードルを高めながら繰り返し批評の学習を行うことで、読むことに対する主体的な姿勢を定着させたいと考える。

2. 研究仮説

仮説① 批評文を書くことを目的に文章を読むことで、自ら課題を定めて主体的に文章を読むことができるだろう。

仮説② 批評文を書くという学習を段階的に繰り返していくことで、主体的に文章を読み、自分なりの考えをもつ読みが身に付いていくだろう。

3. 研究内容

実践1 1年 型を意識しながら美術作品の鑑賞文を書く

実践2 2年 『走れメロス』を一つの観点から分析して批評文を書く

実践3 3年 広告を複数の観点から分析して批評文を書く

4. 結 論

批評の方法と使用する語彙についての段階的な指導により、実社会につながる主体的な読みの姿勢が身に付いたと考える。この姿勢が日常的にどのように生かされていくのか、あるいはどのように生かす場を作っていくのかという点について研究を続けていくことが今後の課題である。

1. 研究主題

自ら課題を設定する力を育む指導法の研究
—学年に応じた批評文を書く学習を通して—

2. 設定理由

中学生に読むことの学習を通して身に付けさせたい力として、知識や考えを広げることに加え自分なりの見解をもつことが挙げられる。そのためには国語科の学習を中心に多様な種類の文章に触れ、その読書経験から自らの人生をよりよく生きるための知恵や知識を吸収する姿勢を身に付けてほしいと考える。しかし、生徒たちの学習の様子を見ると、与えられた文章を受動的にしか読まない姿、発問に関わる部分のみを読んで文章全体を楽しめない姿、文章の長さに疲弊している姿など、主体的に楽しむ読みの姿勢からはかけ離れた姿が見られる。また、教員側も試験範囲や時数の都合などにより、内容理解を優先した授業になってしまうことも少なくない。そういった状況の中で文章を読んで知識や考えを広げ、自分なりの見解をもとうとする姿勢を育みたいと考えた。

そこで、本研究では文章を読む際に自ら課題を設定する力を育む指導法が有効であると考え実践した。文章を読みながら自らの関心や疑問に基づいた課題を設定することで、文章の内容が他人事ではなく、自分のものとして対象化することができる。そうすることによって、文章を主体的に読むこととなり、内容を自分のものにしようとする姿勢が生徒に身に付いていくのではないかと考えた。

そのための学習としては、批評文を書く活動が有効であると考えた。批評とは、対象のよさや特性、価値などについて根拠を明らかにして評価することだと考える。良さや特性を見つけることは、人間関係作りにおいても重要なことである。批評という表現方法を通して分析し、表現して交流することの面白さに気付かせたい。批評は教科書や多くの先行実践では第3学年で扱われることが多いが、第1、2学年においても発達段階を考慮しながら課題や条件を変えながらとりくむことは可能であろう。各学年で段階的にハードルを高めながら繰り返し批評の学習を行うことで、読むことに対する主体的な姿勢を定着させたいと考える。

3. 研究仮説

仮説① 批評文を書くことを目的に文章を読むことで、自ら課題を定めて主体的に文章を読むことができるだろう。

仮説② 批評文を書くという学習を段階的に繰り返していくことで、主体的に文章を読み、自分なりの考えをもつ読みが身に付いていくだろう。

4. 研究内容

批評文を書く活動を通して、文章を主体的に読み自分なりの見解をもたせるためにはどのような手立てが有効であるか、学年の発達段階に応じて3つの授業実践を通して検証していく。

実践1 1年 型を意識しながら美術作品の鑑賞文を書く

1年生の教科書に鑑賞文は「美術や音楽、演劇や映画などの芸術作品を見たりきいたりして、感じたことや気づいたことをまとめた文章」と説明されている。これは批評における作品分析に近い。

そこで、2、3年生での批評文を書く学習の入り口として1年生では鑑賞文を書く学習を行う。1年生の教科書に掲載された鑑賞文を構成に注目しながら読ませ、その型を意識して鑑賞文を書かせる。

また、鑑賞にふさわしい語彙を提示し、美術作品に対する自らの見解に近い言葉を用いながら文章化する活動を行う。

実践2 2年 『走れメロス』を一つの観点から分析して批評文を書く

2年生では文学作品について批評文を書く。文学作品の読み方は小学校から国語の授業の中で学んできている。登場人物の行動に注目して心情を捉えたり表現の意図について考えをもったり、様々なアプローチで多くの文章を読んできている。これまで国語科の学習で文学作品を読んだ経験を想起させることで、自分の関心や疑問に応じた作品分析が行われることを期待する。

本実践では自らの疑問や気づきを生かして教員が提示した3つの視点から1つを選び、分析するテーマを設定させる。視点を限定することによって、自分の疑問や気づきをうまく言語化できない生徒の課題設定を支援することができるだろう。

また、本実践では鑑賞文を書く際に用いたものより多くの批評語彙を提示し、自分の分析や評価にふさわしい表現を吟味させたい。

実践3 3年 広告を複数の観点から分析して批評文を書く

3年生では批評の方法が未知である対象について批評文を書く。今回は対象として広告チラシを取りあげる。目的や役割、ターゲットの設定が他の表現よりも主張性があり、自分なりの見解が持てると考える。また、2年生で書いた批評文よりも説得力のある批評文とするために本実践では複数の視点を設定させる。複数の観点で分析し多角的に捉えたのち、記述の際に中心とする視点を絞らせ文章にすることで自分の主張を明快にさせる。

また、批評文を書く際や話し合いの場で活用する語彙集は、1、2年時よりもさらに分量の多いものを提示する。今まで批評文を書く経験を積んできており語彙に関してはより吟味して選ばせたいと考える。

5. 授業の実践

実践1 1年 型を意識しながら美術作品の鑑賞文を書く

(1) 単元名

根拠を明確にして魅力を伝えよう

(2) 単元の目標

①興味に応じて作品を選び、鑑賞している。[関心・意欲・態度]

②観点を立てて鑑賞し、魅力を伝える根拠を明確にすることができる。

[書くこと イ]

③感じたことを表す語彙を増やし、作品の魅力を語る表現を工夫することができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ウ)]

(3) 評価規準

関心・意欲・態度	書くこと	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項
積極的に作品を選び、意欲的に鑑賞しようとしている。	観点を立てて作品の具体的な特徴を捉え、それを根拠として鑑賞文を書いている。(イ)	語彙集の言葉を実際を使って表現を工夫している。(イ(ウ))

(4) 単元指導計画(全3時間) ※資料1

(5) 授業の様子

1時間目 鑑賞文の書き方を知り、鑑賞文を書く作品を選ぶ。

授業の初めに鑑賞文を書いたことがあるかを尋ねると、ほとんどの生徒が小学校で美術作品や音楽作品の鑑賞文を書く経験をしていると答えた。ないと答えた生徒も他の生徒の説明を聞いて思い出したようであった。活動としては行っているものの、その書き方や特徴は分かっていない生徒もいたため、教科書の例を用いて説明を行った(資料1)。鑑賞の対象とする美術作品は、学校図書館指導員に用意してもらった80冊近くの本から選ばせた。名前を知っている画家の作品を選んだり、表紙の絵から決定したりと選び方は様々であったが、積極的に作品選びを行っていた。

2時間目 絵を見て感じたことを具体的な根拠を明らかにしながら交流する。

1枚の絵を提示し、絵から「感じたこと」と「具体的な特徴」をそれぞれ別の色の付箋紙に書かせた。付箋に書かれた言葉を見ると、「不気味」「にぎやかな感じ」(感じたこと)「くすんだ感じ」「遠近法を使っている」(具体的特徴)というような鑑賞の語彙として適切なものがいくつか見られたため、全体に紹介した。その後、自分の絵について同様の活動を行った。グループの隊形のまま行ったためか、お互いの活動にアドバイスをしあっていた。特に「具体的な特徴」については、気づいていなかった部分を指摘されて考えが広がり、効果的であった。「感じたこと」については積極的に書こうとしない姿がいくらか見られた。理由を尋ねてみると自分の感じたことに対して自信をもてていない生徒と、書こうとする内容が「具体的な特徴」と「感じたこと」のどちらなのか判断できないという生

徒が見られた。前者については、感じたことを口頭で述べさせて認めると、嬉しそうに付箋紙に書いていた。後者については、厳密にどちらに書くべきかという正解はないことを伝えたくて、「なぜそう思ったか」がさらに書けそうなら「感じたこと」の付箋紙に書くように助言した。

3時間目 具体的な特徴を根拠として絵を見て感じたことを鑑賞文として書く。

前時に行った活動をもとに鑑賞文の記述を行った。普段は書き出しで迷う生徒も教科書を手本にしながら書きすすめていった。進度の速い生徒には教科書に掲載されている「感じたことを表す言葉」という語彙集を参照するよう促し、何人かは下書きの言葉を書き直していた。生徒の作品を読むと突出して優れた鑑賞文は多くなかったが、観点を立てて作品の具体的な特徴を捉え、それを根拠として鑑賞文を書くという目標はほぼ全員が達成できていた。**生徒A**の作品(資料3)は、教科書の手本をよく見ながら書いている。1段落目と最終段落に作品の魅力を書き、2、3段落目で魅力の具体的な説明が書いている。使用している語彙も「躍動感」「巧みに」「印象的」など、教科書で挙げられている語彙を使っている。(網掛け部分)他の生徒も同様に一人一人が自分の絵を鑑賞するのにふさわしい適切な言葉を考えて書いていた。一方でほぼ全員の作文が同じ構成であった。見本の提示の方法について検討の余地がある。

生徒Aの作品 「見る人まで楽しくしてくれる絵」(資料3)

(略)

さらに、作者ロートレックは、躍動感の出し方も、文句なしの上手さである。中央でおどっている、男女二人を見てほしい。この男女、特に女性が、とんだりジャンプしたりしておどっている様子を、巧みにえがいている。この男女を見ていると、今にも軽快な音楽が聞こえてきそう。他にも、影のつけ方など、印象的な部分がたくさんある。

にぎやかで、軽快な音楽で楽しそうに人々がおどっているこの絵は、見る人の心まで楽しくしてくれる絵だ。

実践2 2年 『走れメロス』を一つの観点から分析して批評文を書く

(1) 単元名

レビュアーになろう！

(2) 単元の目標

① 文章の主題や登場人物、作者について自分なりの視点で課題を見つけ、自らの読みの問い直しをしている。 [関心・意欲・態度]

② 「走れメロス」を読んで考えたことに説得力をもたせて表現することができる。

[読むこと ウ、エ]

③ 文章の形態や展開の違い、表現の工夫から、作者の意図を読み取ることができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ)]

(3) 評価規準

関心・意欲・態度	書くこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
作品について自分なりの考えを持ち、文章の内容や表現の仕方に着目して読もうとしている。	「走れメロス」を分析する視点を定め、根拠となる表現を明らかにして批評文を書くことができる。(ウ、エ)	文章の形態や展開の違いから、作者の意図を読み取ることができる。(イ(オ))

(4) 単元指導計画 (全6時間) ※資料4

(5) 授業の様子

1 時間目 インターネット上の書評から書評の構成や特徴的な表現を読み取る。

まず、生徒の批評やレビューに対する既有知識を確認すると、スマートフォンアプリのレビューや通販サイトのレビューについての知識が多く挙げられた。この段階では、レビューとは5段階のうちどの評価をつけるかというような数値的な評価のイメージをもつ生徒がほとんどであった。インターネット上の書評の例(資料5)を見せると、見たことがあるという生徒も数人いた。教員が書評を音読するのを聞きながら「評価している」と思う箇所にアンダーラインを引かせた。この活動で生徒は批評文のイメージをつかむとともに、批評における特徴的な語彙についても気づくことができた。「読後の爽快感」「あまりストレスをためずに読むことができます」「アクの強さが際立ちます」「実に効果的」などに気づくことができた。生徒からは挙げられなかった「溜飲が下がる」という表現については教員からアンダーラインを引かせ、辞書で意味を確認させた。後に参照する批評語彙集に掲載されていることを伝え、自分でも使ってみたいというような反応が見られた。

2～4 時間目 分析するテーマを決め、「走れメロス」を読み深める。

「走れメロス」の書評を書くことを伝えた上で、全体を通読した。その後、感想に基づいて書評を書く観点を決めさせた。3つの観点のうち、「登場人物について」「表現について」をほぼ半数ずつの生徒が選び、「作者について」を選ぶ生徒はいなかった。事前学習として冬休み中に太宰治の作品を読むことを勧めていたが、宿題という形ではなかったためほとんどの生徒は読んでいないようだった。同じ作者の作品を複数読むことで作者の考え方や生き方に迫りたいという生徒も出てくると予想されるため、作品へのアプローチ方法を広げる意味でも、事前に別作品をしっかりと読ませておきたかったと感じた。

観点を決めた後に、分析する内容を文章で書き表させ、全ての生徒と個別に話して批評の方向性を決めさせた。分析する内容としては「メロスは本当に正義なのか」「セリフから読み取れるメロスの性格」「『笑い』の表現の違いについて」「物語の語り手の表現の工夫」など、それぞれが疑問に思ったこと、面白いと着眼したことを生かして課題設定を行っていた。

方向性を確認した後は、個人で文章の読み込みを行わせた。図書室で学習を行い、班の形のまま行っていたが、全員が黙々と教科書をめくり、ノートに自分の考えを書いていた。

このときのノートを見ると、基本的な読み進め方はそれまでの国語の授業の読み進め方に近いことがわかった。文学作品の読み方の既習事項を生かしているようだった。

5～6時間目 適切な語彙を用いて「走れメロス」の書評を書く。

記述の段階では語彙集（資料5）を参照させ、分析をもとに評価する適切な言葉を考えさせた。中学生には難しい言葉も多かったが、辞書を引いて理解しようとしていた。記述の間、教員は生徒の質問をいつでも受けられるよう待機した。質問に来る生徒は全体の3分の1程度であった。質問の内容としては書き出しの内容や段落をつなぐ言葉に関するものがほとんどであった。ワークシートには行き詰まったときのためのワークシートも用意しておいたため、その他の生徒はそれを見ながら記述にとりくんでいるようであった。

生徒の批評文を読むと登場人物の言動の意味、文章の構成や展開、表現の仕方などについて個々のテーマで深く読み味わい、自分の見解をもっていることがわかる。批評の言葉も語彙集に含まれるものをほとんどの生徒が使っていた。生徒によっては言葉の意味を調べていても正しく使えていない者もいた。語彙集には用例も載せていくことを検討したい。

生徒Bは表現についての視点から、作者の表現の工夫について分析を行っている。2段落目では「一文一文が短い」「不要な主語や接続詞を省いてある」ことを根拠として挙げ（下線①）、「リズムがあり」「飽きずに読んでいくことができる」と評している。3段落目も同様に表現の工夫についての分析をよく行っている（下線②）。分析する視点に一貫性があり、文章表現の特徴をよく捉えている。

批評の語彙についても、「内容が薄い」「典型的な」「ヒーロー物語」という内容を端的に表す言葉や、「スピード感」「リズム感」「飽きずに読んでいくことができる」「リズムを生み出している」というような表現の特徴を評する言葉を適切に使用している（網掛け部分）。

「書評（レビュー）の例」で用いられている言葉や「評価のコトバ」の批評語彙を参考にしていることがうかがえる。

生徒Bの作品 「走れメロスの作者のえがき方の工夫」（資料6）

「走れメロス」は意外と話の内容が薄い 典型的な ヒーロー物語だ。（略）

①この作品は一文一文が短くなっている。不要な主語や接続詞などが省いてある。だから、文にスピード感とリズムがあり、簡単に飽きずに読んでいくことができる。

（略）メロスが悪い夢を見ているときは、②ただでさえ短い文をどんどん短くし、自分をけなす言葉をたくさん出しているため、文の表現からもメロスがあきらめようとしている感じがでている。

（略）

生徒Cの作品は冒頭のあらすじの書き方に注目したい。簡潔に物語の内容を述べたあと、結末部に関しては疑問を投げかけているが、これは、「書評（レビュー）の例」の下段の冒頭部を参考にしたものと考えられる。読み手を意識する書き方を提示されたモデルから読み取ることができた。

生徒Cの作品 「作者の意図」（資料7）

暴君の王様に立ち向かうこの勇敢な男、メロスが主人公。人の心を疑う王様に、自分の命と真の友情を天秤にかけられ、究極の選択を迫られる。果たして、メロスはどちらを選ぶのか。（略）

Amazon.co.jp カスタマーレビュー「勸善懲惡の企業小説」

バブル期に入行し、大阪西支店の融資課長を勤める半沢が主人公。無担保で5億円の新規融資を実行したが、7ヵ月後に当の相手企業が不渡りを出し倒産、半沢は窮地に立たされる。雲隠れした社長の東田を捕まえることはできるのか、果たして5億円を回収できるのか……。 （略）

実践3 3年 広告を複数の観点から分析して批評文を書く

（1）単元名

広告を批評する

（2）単元の目標

- ①対象を様々な角度から分析し、自分の考えを明確に伝えようとしている。
[国語への関心・意欲・態度]
- ②社会生活の中から課題を決め、批評を行う観点を吟味している。 [書くこと ア]
- ③様々な観点から対象を分析し、中心とする観点を決めて説得力のある批評文を書くことができる。 [書くこと イ]
- ④対象を分析、評価するための適切な言葉を吟味することができる。
[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

（3）評価規準

関心・意欲・態度	書くこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
・色々な広告の視聴者を想定し、様々な考えを理解しようとしている。	・広告を批評する様々な観点を想定して意見を述べている。（ア） ・自分が中心に伝えたいことを考え、筋の通った批評文を書いている。（イ）	・広告を批評するのにふさわしい言葉を使っている。（イ（イ））

（4）単元指導計画（全4時間） ※資料8

(5) 授業の様子

1時間目 批評について確認し、広告の表現の特色を学ぶ。

まず、既習事項である批評について確認した。根拠を明らかにして、対象に対する評価を述べるという内容はおおむね理解していた。広告については普段から広告を意識して見ている生徒はいなかったため、教科書の例を用いながら広告の要素（キャッチコピーやイラスト、文字表現など）を確認した。2時間目までの間に批評する対象の広告を探すよう伝えと、いくつかの広告を例として挙げ学習に興味をもっているようであった。

2時間目 話し合いを通して広告を複数の観点から分析する。

本実践では広告を批評するための観点を複数立てやすくするための手立てとして、広告に関わる人物になりきった話し合い活動を行った。例えば、「コピーライター」ならキャッチコピーという観点、「小学6年生」ならば、「年齢の低い、印象を重視する受け手」という観pointsの具現化というように、批評の観点にあたる部分を具体的な人物に置き換えてなりきらせるのである。広告の発信者あるいは受信者として、あえて情熱的かつ主観的に語らせることで、聞き手に冷静かつ客観的な評価の視点を持たせたいと考えた。

本時の話し合いでは広告を見る幅広い年齢層になりきったり、広告代理店やイラストレーター、コピーライター等の役割になりきったりして、広告を見る様々な視点があることを確認できた。「なりきり」を通して生き生きと複数の観点から分析・評価を行い、自分の考えをもとに取捨選択し、統合し、筋道の通った批評文を書く力を身に付けていた。

また、「なりきり」の活動は生徒にとって楽しくとりくめ、かつ、様々な観点からの分析を言語化しやすくする効果が認められた。教科書や先行実践では第3学年で扱われることの多い批評の学習だが、この手立てを応用することで第1学年からの実践も可能とすることが期待できる。

3～4時間目 批評の中心になる観点を決め、筋の通った批評文を書く。

前時に複数の観点から分析した内容を整理し、批評文を書く活動を行った。広告を分析するという経験は全員にとって初めての経験であったにも関わらず、キャッチコピーやイラスト、文字のレイアウト等のデザイン面など、広告の批評として適切な観点から分析することができた。**生徒D**は冒頭で広告の印象に関する分析を行い、2段落目でキャッチコ

生徒Dの作品 「興味を持たせるための工夫」(資料 11)

(略)

一見、ただの塾などの広告に見えるが、(略) ^①キャッチコピーでも分かる通り、実は大人へ向けたメッセージになっていた。そう考えると汚い字にはもう一つの意図があるように見える。^②子供が書いたような字で、大人の心により訴えさせようとしているのではないだろうか。実に良く考えられている。

このように、この広告は作り手の柔軟な発想が伝わってくる心を奪われる作品だと思う。他の政治の広告は難しい印象があるのに対し、これは閲覧者に興味を持たせることができるアイデアに富んだ作品だ。

ピー（下線①）と文字のデザイン（下線②）の観点から広告のメッセージ性について評価している。最終段落では、「柔軟な発想」「心を奪われる」「アイデアに富んだ」といった語彙を適切に使い複数の観点からの批評をまとめあげた（網掛け部分）。

語彙集（資料 10）については、2 年次に使用したものよりも分量を増やしたためか、2 学年で行った学習の時よりも評価の言葉にこだわる様子が見られなかった。記述の時間を 1 時間増やすか、語彙集の言葉を厳選する必要があると感じた。あるいは年間を通じて批評する語句を使うような短作文を授業に盛り込み、継続して指導していくことも必要であろう。また、語彙のニュアンスをつかませるため用例を掲載したが、これにより、言葉の意味を誤解して使う生徒はほとんど見られなかった。

段階的な指導の成果としての生徒作文の変容

生徒 E は作文の記述で何を書くか迷ってしまい、なかなか書き出せない生徒である。記述内容については主述のねじれや誤字脱字などが多くみられる。

作文に苦手意識をもつ生徒ではあるが、「走れメロス」の批評文では書くべき内容についてはしっかりと書かれている。セリヌンティウスとメロスの関係を表す表現に着目し、「殴り合う」という動作の効果を考えながら分析している。そして最終段落で「この作品を読むときは、二人の関係に着目してみると面白い。」と全体を評している。ただし、使用している語彙は乏しく、分析においては「表現している。」「感心している。」というような客観的ではあるが書き手の評価が伝わりにくい表現を用いている（網掛け部分）。

同生徒の広告の批評文を読むと、2 年次に書いていた批評文からの成長がはっきりと見て取れる。まず、冒頭の段落では使用されている写真に着目し、時代を象徴する写真を使っていると指摘している。2 段落目では「奇想天外な」という語を使用しながらキャッチコピーを分析し、段落の終わりは「気持ちを高めてしまう。」という書き手の評価が見える表現でまとめている（網掛け部分）。複数の観点から分析、評価をしている点で 3 年次の目標を達成している。また、使用語彙に関しても語彙集を参照しながら適切な言葉選びを行っていることがわかる。

生徒 E の作品（資料 12）

「メロスとセリヌンティウス」

（「走れメロス」）

（略）

暴君ディオニスが「仲間に入れてくれまいか。」と二人の友情ぶりに感心している。

このように作者は、まわりの人物の言葉や動作で、二人の友情の深さを表現している。

「二〇二〇年のライバル」（広告）

（略）

「東京オリンピックを成功させよう。」という簡単な一言をこの広告は、五十六年前のオリンピックを「ライバル」という奇想天外な考えで表しており、「あのころの日本人に笑顔で負けるな。」など、同じ国の今昔をまるで他国と対決しているかのように書くことで、見ている人の気持ちを高めてしまう。（略）

6. 結論

仮説①について

全ての実践において生徒たちは意欲的に活動にとりこんでいた。学習の見通しをもたせ、文章を書く手順や分析の方法などを伝えた上で個人の作業をさせることで、課題を定めて学習にとりくむ姿が見られた。1、2年生の実践ではモデルを示したことにより、何についてどのように書くかという活動のゴールが明確になった。文章を漠然と読むのではなく、分析をして評価するという明確な目的をもって読むことで、読むことに対する主体性が表れたと考える。

仮説②について

1、2学年で批評文を書かせるにあたって、既習事項を活かした学習活動を設定した。学習が単発ではなく、つながっていることを意識させたことで、生徒は抵抗感をもたずに学習にとりこんだ。また、1学年では感じたことの根拠をどこに求めるか、2学年では作品をどのアプローチで作品分析をするか、3学年ではどのような観点から批評を行うかということ課題にした。生徒の課題のレベルを学年に応じて設定したことで、無理のない学習を展開することができた。さらに、批評文を書く際に用いる語彙集についても学年が上がるにつれて収録数を増やした。低学年では少ない選択肢の中から言葉を「使ってみる」ことを実践し、学年が上がるにつれて数多くの言葉からより適切な言葉を「吟味する」方向にレベルアップさせることができた。語彙が増えたことによって分析する視点が多角的になったという側面も見られた。

批評の方法と使用する語彙についての段階的な指導により、実社会につながる主体的な読みの姿勢が身に付いたと考える。

今後の課題

本研究では、批評文を書くという学習活動が主体的に読む姿勢を育むことに有効であることを検証できたと考える。しかし、主体的に読む姿勢は一朝一夕に身につくものではない。真に身につくのは、日常の読書生活を通してであろう。今回の批評文を書くという活動で身に付けた課題を設定して読むという姿勢が日常的にどのように生かされていくのか、あるいはどのように生かす場を作っていくのかという点について研究を続けていくことが今後の課題である。

また、批評文を書く際には、その語彙が説得力を高める上で重要な役割を担うが、語彙集の活用については課題が残った。各学年に適した語彙集の再編を行いたい。また、年間を通じて使用する語彙を磨き上げるような場を設ける必要を感じた。たとえば、作文を書いた後に推敲の場を設け、使用した言葉をより適切な言葉に改善していくような活動をさせることなどが考えられる。

資料

資料1	実践1	1年	型を意識しながら美術作品の鑑賞文を書く	
	単元指導計画			1
資料2	光村図書「国語1」			2
	感じたことを整理する		根拠を明確にして魅力を伝えよう	
資料3	鑑賞文	生徒Aの作品		4
資料4	実践2	2年	『走れメロス』を一つの観点から分析して批評文を書く	
	単元指導計画			5
資料5	レビュアーになろう！	（「走れメロス」学習の手引き）		6
資料6	「走れメロス」批評文	生徒Bの作品		8
資料7	「走れメロス」批評文	生徒Cの作品		9
資料8	実践3	3年	広告を複数の観点から分析して批評文を書く	
	単元指導計画			10
資料9	広告を批評する	批評の対象とした広告		11
資料10	広告を批評する	批評語彙集		12
資料11	広告を批評する	生徒Dの作品		14
資料12	段階的な指導の成果としての生徒作文の変容	生徒Eの作品		15

資料 1

実践1 1年 型を意識しながら美術作品の鑑賞文を書く

単元指導計画（全3時間）

時	学習活動と内容	指導や支援の手立て（◇は評価）
1	・学習の見通しをもつ。 ・鑑賞文の書き方を知る。 ・図書室の本から鑑賞文を書く美術作品を選ぶ。	・教科書の鑑賞文の例を使い、鑑賞の観点や鑑賞文の構成を読み取らせる。 ◇積極的に作品を選ぼうとしている。
2	・1枚の絵について感じたことや気づいた特徴について交流する。 ・短文で、絵から感じたことを書く。 ・自分の選んだ絵について感じたことや気づいた特徴をノートに書く。	・色付箋を用いて「感じたこと」と「具体的な特徴」を分けて書き出させる。 ・付箋に書かれた中から、感じたことや特徴を表す語としての的確なものを紹介する。 ◇具体的な特徴を根拠として感じたことを述べている。 ・教科書の「感じたことを表す言葉」を参考にさせる。
3	・選んだ美術作品について400字程度の鑑賞文を書く。	・構成は教科書の鑑賞文を参考にさせる。 ◇観点を立てて作品の具体的な特徴を捉え、それを根拠として鑑賞文を書いている。

基礎十六景 緑州正院 京都府京都市



練習 感じたことを整理する

上の絵の具体的な特徴や、感じたこと・想像したことを書き出した付図を整理しながら、鑑賞するときの観点を整理しよう。

「これは何だろう」「この表現はおもしろいな」など、感じたことを大切にしながら、作品を鑑賞するときの観点を整理しよう。

観点	感じたこと・想像したこと	具体的な特徴
人物を手に大きく描き、富士山は奥に配置。 富士山は奥に配置。	緑の森に描かれた人々の姿、 一歩進めたいという人々の姿、 一歩進めたいという人々の姿。	富士山は奥に配置。 富士山は奥に配置。

●観点 ●感じたこと・想像したこと ●具体的な特徴

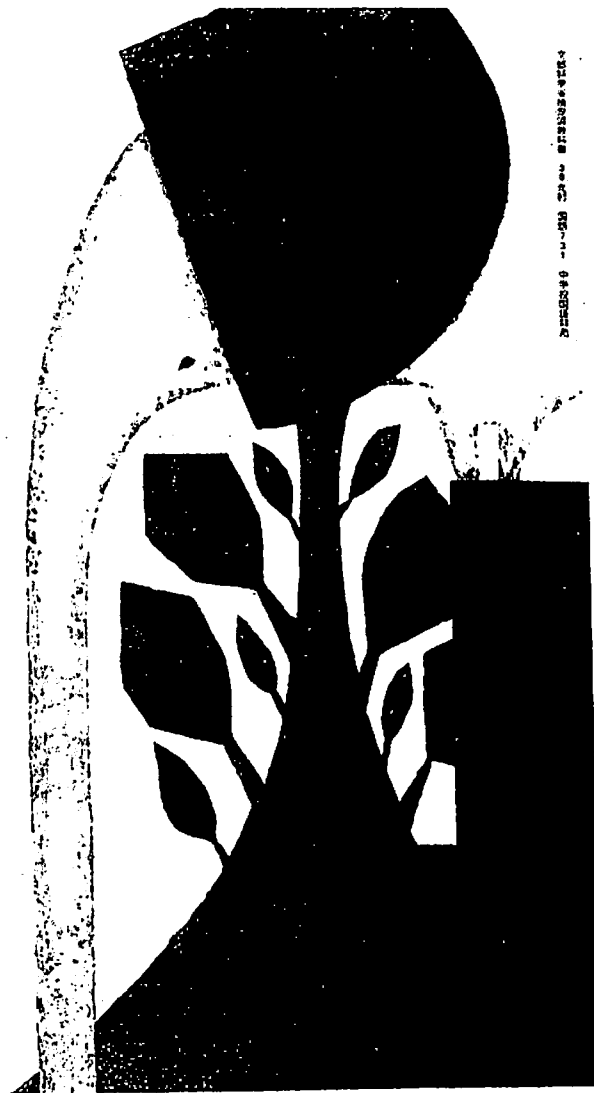
上達のポイント

- 構成・配置 何がどこに描かれているか。遠近・対比・進行などに着目する。
- 対象・題材 何がどのように描かれているか。人物の表情や動作、物の形や大きさ・動き・質感などに着目する。
- 色彩 どんな色がどこに使われているか。明暗・濃淡・色の組み合わせなどに着目する。
- 音(会話・匂い・温度・季節感など) どんな場面の様子か想像できるか。

11

国語 1

光村図書



光村図書出版

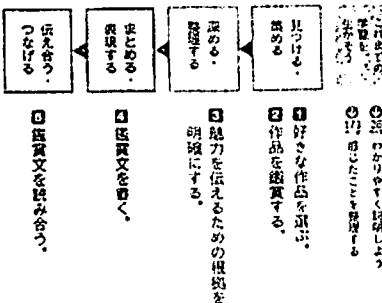
根拠を明確にして魅力を伝えよう 鑑賞文を書く

美術作品を見て、「いいな」「すてきな」と感じたとき、その魅力をどのように伝えたいだろうか。作品をじっくり見て、具体的な特徴を挙げながら、そこから感じたこと、想像したことを言葉にして、自分が感じた魅力を伝える文章を書こう。



学習の進め方

- 作品を鑑賞し、その魅力が伝わるように根拠を明確にして文章にまとめる。
- 鑑賞した文章を互いに読み合い、作品の伝え方や表現のしかたについて考えをまとめる。



好きな作品を選ぼう

◎ 光村図書 美術つしり



「選んだ作品」
「ムーン・ドゥ・ウ・
ギャレット」
「作品」
オーストラリア・ルノワール
「作品の魅力」
ダンスホールに集まった
人々の楽しそうな様子が伝
わってくる。

次の方法を参考に、自分の好きな作品を一つ選ぼう。
● 図・図ページや「季節のしおり」に載っている作品の中から
● 美術の教科書や学校図画館にある本の中から
● 美術館や博物館で見た作品で、心に残ったものの中から
作品を選んだら、どんなところに魅力を感じたのか、一文で表してみよう。

「鑑賞文」美術や音楽、演劇や映画などの芸術
作品を見たりきいたりして、感じたこと(気持ち)
いたことをまとめた文章。どんなところに魅力
を感じたのか、具体的な特徴を挙げながら、根
拠を明確にして書く。

題材の例

- 絵画・彫刻・デザイン・工芸などの美術作品
- クラシックやポップ・ミュージックなどの音楽作品
- テレビ番組・映画・写真などの映像作品
- 物語・小説・詩・短歌・俳句などの文学作品

11 書く 根拠を明確にして魅力を伝えよう

「ムーン・ドゥ・ウ・ギャレット」 オーストラリア・ルノワール

No.

見る人まで楽しくしてくれる絵
 生徒A
 ムーラン・ルージュのダンスにうほ
 としても楽しそうな様子が見て取れる。
 この絵の後ろの方を見ると、人がたくさん
 いてとてもにぎやかである。さらに、中央の
 男女に、お人なげ注目している。そのため、
 この絵は中央の男女が主役の、ほかの会場の
 ではないが、というこも考えられる。
 さらに、作者カート・レックは、躍動感の出
 し、ち、艾句なしの、耳をささぐ。中央がお
 いて、男、女二人を見てほしい。この男
 女、特に女性が、とんだリジャンプしたりし
 ておいて、いる様子、巧みにえがいて、いる。
 この男女を見て、いると、舞に、な軽快な音楽が
 聞こえてきそうだが、他にも、影のつけ方など、
 印象的な部分がたくさんある。
 と、おれ、で、軽快な音楽で、楽しそうに人々
 がおいて、いるこの絵は、見る人の目まで、来
 しく、してくれる絵だ。

A

資料 4

実践2 2年 『走れメロス』を一つの観点から分析して批評文を書く

単元指導計画（全6時間）

時	学習活動と内容	指導や支援の手立て（◇は評価）
	事前学習（冬休みの課題） ・ 太宰治の作品を一つ読み、太宰治の作品世界に触れる。	・ 冒頭文を掲示したり、読みやすい作品を提示したりして関心をもたせる。
1	・ 書評という表現形式について知る。 ・ インターネット上の書評から、書評の構成や使用している語彙などの特徴を読み取る。	◇ 書評の構成や特徴的な表現にアンダーラインを引いている。
2 3 4	・ 「走れメロス」を通読する。 ・ 「走れメロス」を分析する観点を決める。（「登場人物について」「表現について」「作者について」） ・ 「走れメロス」の書評を書くためのメモを書く。 ・ 「走れメロス」の読みを深める。	・ 範読を行う。 ◇ 登場人物の言動の意味、文章の構成や展開、表現の仕方などについて深く味わい、自分の考えをもっている。 ・ 「書けないときに…」のワークシートと書評語彙集を活用させる。 ・ 文章中の言葉を根拠にするよう意識させる。
5 6	「走れメロス」の書評を書く。	◇ 作品に対する評価を、適切な言葉を用いて表現している。

冰肉

・作品を分析する観点がしっかりしているが、

・作品を分析したりとついでに面白そうな書物を探してみたい。

A 登場人物について

B 表現について

C 作者について

選んだ観点……

B

② 群について分析する場合は、次のように、

例

A 登場人物について

・〇〇の性格について分析する！

「**900**というセリフについて分析する……」

・○○が したことをについて分析する！

・〇と△△の関係について分析する――

B 表現について

・ 匿名の「 」について分析する！

・この物語の語り手の変化について分析する――

・この物語の展開の仕方について分析する！

・この物語の結末について分析する！

「 」
という言葉の意味について分析する――

C 作者について

・作者がこの作品を書いた時期をよまえて物語の結末について分析する！

・作者の他作品の登場人物との違いについて分析する！

作者の他作品の結末との違いについて分析する！

作者の著書の方の要

— 分析するに——

③分析には「評価のズトバ」を使おう！

分析するときには、あなたがどう思うかをじっくり表す言葉を選んで評価しよう！

「レビニアーになろう！ 学習のてびき」の「早稲のユトバ」を参考に！

例

こんなことをする〇〇は、すがすがしい人物である。／この場面は細かな描写である。この物語のラストシーンでは濃度が下がる。／別の作品と比べて印象的である。

笹森 幸三の傳者の 矢野 龍溪の云

二年組番氏名 牛橋 辰巳

[illegible]

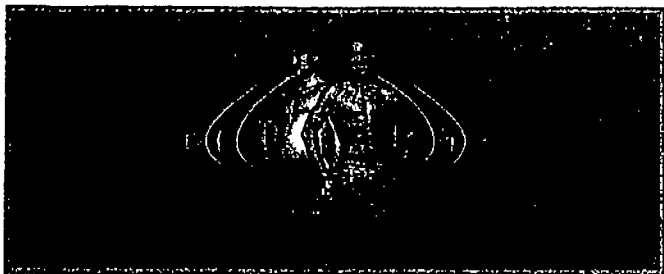
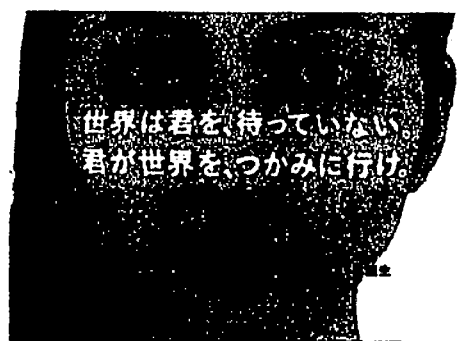
作品の評価 ★★★★★

資料 8

実践 3 3年 広告を複数の観点から分析して批評文を書く

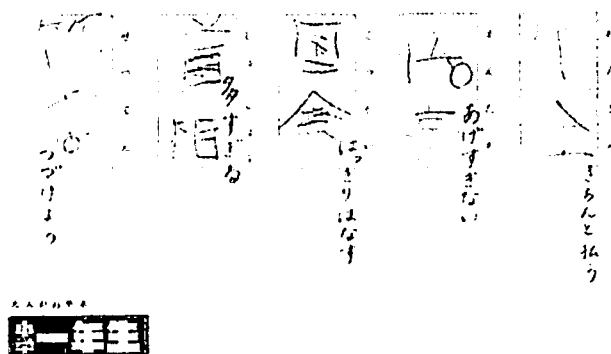
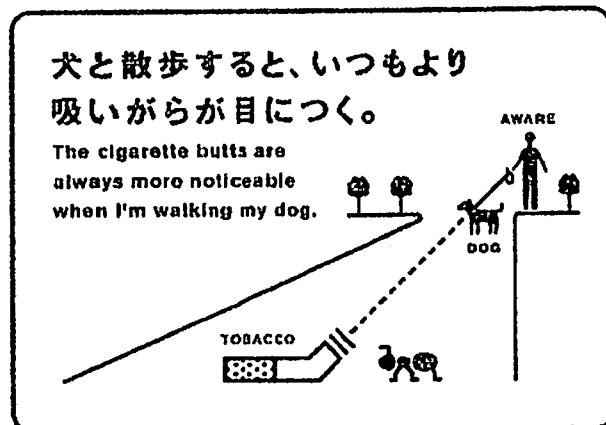
単元指導計画（全 4 時間）

時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
1	・学習の見通しを知り、どのような力を付けようとしているのかを確認する。 ・批評について確認する。（既習事項） ・広告の表現の特色について学ぶ。 ・批評の対象となる広告を探す。	・今回の批評文では、対象を色々な観点から見ることに重点を置くことを意識させる。 ・紙面の広告に限定することを伝える。
（第 2 時までの準備） ・生徒が挙げた広告を吟味して絞り込む。（新聞や雑誌の広告、駅や街灯の看板広告など、広告を見る環境、広告のターゲット等が異なるものを選ぶ。また、同一テーマを扱った広告、同一媒体で特色を出すために特徴的な表現をしている広告なども取り上げたい。）種類が少ない場合は指導者が用意したものも提示する。 ・絞り込んだものから批評したい広告を選ばせ、批評する広告を決定する。		
2	・選んだ広告にどんな人物が関わるかを考えて挙げる。 ・広告に関わる人物になりきり、広告に対する感想を述べたり、違う立場の人物に意見を述べたりする。 ・グループで出た意見を全体に紹介する。	・広告に関わる人物について、性別・年齢・職業等を詳しく想定させる。 ・大きい紙をグループの中心に置き、それぞれの感想や意見を記録させる。 ・表現が稚拙な場合には評価語彙のプリントを活用することを助言する。 ◇様々な立場の考えを想像して意見を述べている。
3 4	・分析したものをもとに説得力のある文章の構成を考える。 ・構成表を用いて実際に文章を書いていく。 ・それぞれの書いた批評文を読み合い、そこから学んだことを共有し合う。 ・教材のまとめ・講評を聞く。 ・学習の振り返りを書く。	・批評の中心になる観点を決め、他の観点をどのように取り入れるかを考えさせる。 ◇述べたいことを決め、それが中心となるような観点や表現を取捨選択している。 ◇自分が中心に伝えたいことが伝わるように、筋の通った批評文を書いている。

[illegible]

伊藤の事を、知っている、
我が身も、おぼろに付く。

また、助成対象となる事業は、国連社会開発計画（SDGs）の



色を表現する言葉

色とりどり	～の花が店先に並んでいる。
薄明るい	曇りのため夜でも外が～。
カラフル	～な衣装で登場した歌手。
ざらざら	夏の太陽が～と照りつける。
金びか	改修を終えた金閣寺は～だ。
こうこう	ライトが～と輝く舞台。
漆黒	波のない夜の海は～の闇だ。
純白	～のドレスを着た花嫁。
真紅	～のバラの花束を贈る。
光り輝く	優勝者に～王冠が贈られる。
ほの暗い	森の中は日差しが届かず～。
モノクロ	カラー写真を～に加工する。
いびつ	押されてだんごが～になった。
隙っぺら	～な布はすぐに破ける。
大ぶり	～の湯飲み茶碗を愛用する。
広大	～な土地で牧場を営む。
ごちんまり	夫婦で運営する～した店。
だだっ広い	～だけで何も無い部屋。
分厚い	～辞書を重し代わりにする。
流線形	～の車体は新幹線の特徴だ。
軽やか	～な足取りで歩く。
そよそよ	風が～と木の葉を揺らす。
波打つ	強い風で水面が～。

印象を表現する言葉

愛らしい	じゃれ合う～子猫たち。
味な	祖父はいつも～ことを言う。
粋	そのネクタイは～だね。
潔い	すぐに非を認めるとは～。
朗しい	～歌声に聴衆は魅了された。
お茶目	いたずら好きな～な人。
おつ	今の時代に和服とは～だね。
種和	ふだん～な人が珍しく怒る。
快活	～な性格で人々に好かれる。
格調高い	～作品から表現を学ぶ。
華麗	アイスダンスの～な演技。
かわいらしい	近所の子犬が～。
甘美	ハーブの～な香りが響く。
気品がある	シャム猫はどことなく～。
滑らか	～な気持ちでお参りする。
きらびやか	ロビーの～なシャンデリア。
きりつと	～した表情で舞台上上がる。
劇的	科学技術の～な進化。
元気が出る	速く～勇ましい音楽。
高貴	～な精神を感じさせる絵画。
神々しい	壁面に描かれた～王の姿。
心地よい	軽く走って～汗をかいだ。
心温まる	動物が恩返しをする～重話。
心憎い	～気配りに悪心する。
心優しい	～人といわれて申せだ。
快い	幸運にも～退事をもらえた。
心をとろかす	～ような琴の美しい音色。
心をひく	最も～のは彼の自画像だ。
親しみ深い	何か～感じのするメロディー。
しなやか	体操選手の～な動き。
シャープ	研いだ包丁の～な切れ味。
しゃれた	テラス席のある～カフェ。
純粋	優しくて心の～な人。
情熱的	彼は自分の夢を～に語った。
上品	～さは心がけで身につく。
すがすがしい	高原の山荘で～朝を迎えた。
繊細	～な筆遣いが特徴の日本画。
洗練	古典から学ぶ～された文章。
荘厳	～な大聖堂に圧倒された。
壮麗	～な大行列が街道を進む。

力強い	～味方を得て、百人力だ。
血の通った	現地で求められる～支援。
チャーミング	彼女の～な笑顔が好きだ。
伸びやか	自然の中で子供は～に育つ。
はつらつ	年を重ねても～としている。
風格がある	彼にはリーダーとしての～。
フレッシュ	新人の～な感性を生かす。
ほほ笑ましい	老夫婦の仲の良い姿が～。
まっすぐ	兄は～な気性の持ち主だ。
みずみずしい	～感性から生まれた作品。
勇壮	みこしをぶつけ合う～な祭り。
優美	伝統的な文様の～な着物。
愉快	彼女の～な話に皆大笑いした。
リズムカル	～なサンバに合わせて踊る。
りりしい	～顔つきをしたオオカミ。
ロマンチック	～な映画を見た。
あざとい	～やり方では褒められない。
端はか	もうけ話を借るとは～だ。
味気ない	趣味がないなんて～人生だ。
甘ったるい	そんな～考えは通用しない。
怪しげ	自信があると云ったが～だ。
荒っぽい	荷物の扱いが～。
うさんくさい	鎌倉時代の老刀だというが～。
重苦しい	連敗でチームは～雰囲気だ。
堅苦しい	～挨拶は抜きにしよう。
腐屈	そう～に考えるべきでない。
けげんばしい	彼女に～化装は似合わない。
滑稽	今更そんな言い訳は～だ。
小憎らしい	～ことを言うが憎めない。
せせこましい	～よりおろかな人がいい。
俗っぽい	お金が一番とは～考えだ。
粗悪	～な振る舞いは許されない。
頼りない	決断力の無い～上司。
だらしない	先生に～服装を注意される。
つまらない	この映画は脚本が今ひとつ～。
軟弱	～な精神を鍛え直す。
ひねくれる	褒められないで育つと～。
不快	なれなれしい態度は～だ。
無骨	挨拶もできない～な男。
無粋	冗談が分からないとは～だ。
不真面目	規則を守らない～な人たち。
不愉快	あの店は店員が横柄で～だ。
古くさい	ずいぶん～と考え方だ。
まがまがしい	～事件の記憶が残る。
見苦しい	説明会見での聞き直りは～。
醜い	造像相模をめぐり～争い。
幼稚	仕返しなんて～なやり方だ。
わざとらしい	褒めてくれるのはいいが～。
言い知れぬ	受賞が決まり、～喜びに満ちる。
今風	～なデザインの服が欲しい。
鬼気迫る	～演技に拍手が起こった。
刺激的	その提案は～だ。
地味	～な模様で暗い印象だった。
すさまじい	～戦闘シーンに圧倒される。
スリリング	～な展開で人気のドラマ。
デリケート	宗教は～な問題の一つだ。
ドライ	感情を殺さない～な人。
隠めく	人気作家の～私生活。
生々しい	戦場の～様相を伝える絵画。
はで	～な羽根飾りの付いた衣装。
張り詰めた	試験会場のびんと～空気。
一筋ある	～職人だがいい仕事をする。
まか不思議	信じられない～な事件だ。
もの悲しい	夏の終わりに聞く波の音は～。

その時	ものか	～な苦むす寺で座禅を組む。
リアル		今にも動き出しそう～な絵。

心持を表現する言葉

エキサイト	白熱した試合で～した観衆。
会心	ようやく～の作ができた。
感慨深い	語り部の～話を聞いた。
感激	憧れの人に会えて～した。
感嘆	大自然の美しさに～した。
感無量	投資家の彼女が～の面持ちで
感銘	彼の努力の成果に～を交えた
氣勢をあげる	決勝戦の前に選手たちは～。
零接に始まる	先輩の何気ない一言が～。
心が躍る	宇宙旅行の実現に～。
しみじみ	母校に来て～と懐かしんだ。
高揚する	発表を前に期待で胸が～。
血が騒ぐ	海を見ると漁師の～。
血がたぎる	優勝の感動を思い出すと～。
得意	先生に褒められて～になる。
身にしみる	人の優しさがつづく～。
胸がいつぱい	最後の握手で～になった。
胸に迫る	再会を果たして～ものがある。
胸を弾ませる	新入生は入学式に臨んで～。
愛くるしい	無邪気な笑顔が～。
憧れ	～のみに花束を贈った。
いじらしい	かいたいしく尽くす姿が～。
慈しむ	親猫が子猫たちを～。
いとおい	丹念に育てた庭の草花が～。
うっとり	華麗な舞臺に～した。
懐古	過ぎ去った時代を～する。
感服	勇氣ある行動に～した。
郷愁	沈む夕日が～を誘った。
敬愛	～する恩師の下で研究する。
敬慕	民は王に～の念を抱いている。
恋しい	遠く離れていると想いが～。
焦がれる	～思いで再会のときを待つ。
慕わしい	姉は彼に～思いを抱いている。
心酔	パッパの音楽に～する。
崇拜	自然を神のように～する。
羨望	～のまなざしを注ぐ。
渴望	祖母は孫を～している。
ときめき	彼女を見るだけで～を覚える。
懐かしい	初めて来たのになぜか～。
熱望	彼は世界平和を～している。
熱をあげる	海外のミュージシャンに～。
ノスタルジー	あの歌を聞くと～を覚える。
ひかれる	温かく優しい人柄に～。
慕情	ひそかに～を夢らせる。
ほだされる	彼女のけげんな気持ちに～。
ほれるむ	監督がその才能に～逸材。
魅入られる	迫力ある電の天井画に～。
浮き立つ	願いがかなって心が～。
気が晴れる	話すだけで～こともある。
気が楽になる	悩みを打ち明けて～。
くつろぐ	ゆったり温泉につかって～。
痛快	逆転劇した～な試合。
慰める	疲れた心を～ため旅に出る。
和む	縁に包まれると心が～。
のんびりする	休みを取り、旅に出て～。
吹っ切れる	新しい出会いがあれば～。
ほっとする	試験が終わると～。
ほのぼのする	子犬の愛らしい寝顔に～。
満腹	夏休みに南国の海を～した。
胸がすく	訴えが認められて～思いだ。
安らぐ	ラベンダーの香りで～。

リラックス	～して臨めば大丈夫だ。
素直	子供たちの未来を～。
憂い	悩めれば～なし。
感傷的	引退の日に～な気分になる。
心細い	一人で交渉に行くのは～。
心もとない	子供だけで行かせるのは～。
寂しい	彼が転校してしまうのは～。
傷心	失恋して～の日々を過ごす。
切ない	母校の取り返しは～ものだ。
悲哀	後ろ姿に人生の～を感じた。
憂鬱	なかなか宿題が終わらず～だ。

批評する言葉

あつけない	～結末に落胆する。
意表を突く	～展開の連続で気が抜けない。
インパクト	絶対忘れられないほどの～。
上滑り	表現が～していて読みがたい。
飾り気のない	素朴で～歌が好きだ。
強烈	生々しく～描写に息をのむ。
緊張感	～あふれる演義に静まり返る。
言語に絶する	第二楽章は～ほどの美しさだ。
現実離れ	～したストーリーでしられる。
心温まる	～エンディングに涙する。
枯淡	～の趣がある水墨画。
さめた	～印象を与える曲。
シニカル	人の愚かさを～に描いている。
重厚	遅めのテンポの～な演奏。
衝撃的	～な結末に驚かされる。
情熱的	激しいリズムの～な曲。
シリアス	喜劇であるが、テーマは～だ。
深遠	短い言葉の中に～さを感じる。
神秘的	～な表現に心ひかれる。
辛辣	～な社会批評でもある映画。
崇高	曲の～さに心を打たれる。
スケール	～の大きな歴史映画。
感情的	～なメロディーが特徴の曲。
浅薄	展開が安易で～な小説。
鮮明	情景が～に浮かぶ描写。
卑屈	メロディーが～で魅力がない。
通俗的	～なストーリーで人気を博す。
透明感	～のある歌声に癒やされる。
ニュアンス	～の違う言葉を使い分ける。
濃密	この小説は心理描写が～だ。
凛然	～とした印象で捉えにくい。
徹底的	悪くないが～でも足りない。
不可解	何とも～なストーリー。
変化に富む	～展開の映画。
彷彿	昔の日本を～とさせる映画。
間延び	～したせりふが多い作品。
耳に残る	いつまでも～メロディー。
無邪気	～で明るい印象の詩。
無味乾燥	～で魅力がない文章。
目に焼き付く	この絵は一度見たら～。
めりはり	～のないだらだらとした展開。
持って回った	～表現が多くてわざとらしい。
躍動的	筆遣いが自由で～だ。
ユーモラス	笑いを誘う～な表現が多い。
余情	～あふれるエンディング。
予想どおり	～の展開でおもしろくない。
波瀾	～なメロディーに魅せられる。
息が詰まる	迫真の演技に～。
息をのむ	みごとな演奏に思わず～。
うっとりする	彼女の歌声に観客は～。
カタルシス	悲劇を見て、～を体験する。
感に堪えない	この作品の味わい深さは～。
感銘を受ける	生涯忘れられないような～。
琴線に触れる	最後の場面が～。

ぐっとくる	このシーンは何度見ても～。
心が洗われる	清らかなメロディーに～。
心にしみ入る	遠き遠き昔色が～。
心に響く	彼らの歌声は～。
心を奪われる	主演俳優の演技に～。
言葉を失う	圧倒的なクライマックスに～。
じいんとくる	主人公の最後の言葉に～。
じんわりくる	この場面は何度観ても～。
手に汗握る	スリリングな展開に～。
陶然となる	名手の紡ぎ出す音色に～。
泣ける	最後の別れの場面は～。
のめり込む	ある詩人の作品に～。
ほれほれする	速りのあるたくましく～。
魅了される	小気味よい演技に～。
夢中になる	恋愛小説に～。
我を忘れる	歴史小説に読みふけて～。
粗削り	～な線で迫力のある展開。
アンバランス	色の組み合わせが～だ。
異色	主人公が異という～の設定。
エキゾチック	耳慣れない～なメロディー。
画一的	人物の描き方が～だ。
固期的	新時代を予感させる～な曲。
感覚的	～な描写がおもしろい時。
換骨奪胎	古典を～して現代化した作品。
複合的	歌詞が～で理解が難しい。
簡明	文章が～で分かりやすい。
技巧的	工夫を凝らした～な作品。
奇想天外	～な展開に驚かされる。
客観的	感情を抑えた～な表現。
具象的	人物を～に描いた絵画。
形式的	～で温かみが感じられない。
厳格	遠近法を～に守った絵画。
堅実	ベテラン俳優中心の～な配役。
現代的	仮想現実という～なテーマ。
合理的	展開が～で分かりやすい。
個性的	まねのできない～な文体。
詩的	見る人の想像を誘う～な映像。
写実的	～に描かれた風景画。
自由	常識に捕らわれない～な表現。
重層的	三つのテーマが～に絡む劇。
周到	～に伏線が張られた小説。
柔軟	テンポの設定が～な演奏。
主観的	～に誇張して描かれた自画像。
情緒的	ストーリーが～で甘ったるい。
新機軸	～のデザインの建物に驚く。
シンメトリー	～な構成の西洋絵画。
西洋的	～な思想を背景にした作品。
装飾的	曲線が多い～なデザイン。
即物的	誇張を排した～な描写。
大胆	～なデザインの建築。
多面的	～な解釈が可能な作品。
丹念	～なタッチで仕上げられた絵。
秩序立った	～明快な構成の作品。
抽象的	心の不安を～に表現した絵画。
手が込んだ	細密画のように～な工芸品。
デフォルメ	現実の対象を～して描く。
典型的	現代人の～な人物像の表現。
都会的	洗練された～なメロディー。
難解	構成が凝りすぎていて～だ。
パラエティ	～に富んだ人物が登場する。
パロディ	これは「走れメロス」の～だ。
不条理	～な世界を描いた小説。
保守的	時流に乗らない～な内容。
本格的	短い～な推理小説だ。
無機的	乾いた印象の～なメロディー。
無造作	一見～な描写が効果を待つ。

明快	場面の展開が～な小説。
有機的	楽器の音と歌声が～に絡む。
理知的	～で落ち着いた文体。
立体的	～な構図で撮られた写真。
流行	～のテーマを追った作品。
論理的	推理小説は～な謎解きが命だ。
和風	～の柔らかな音色。
異彩を放つ	特別賞の絵は～ものだった。
一顧地を抜く	応募作の中で最優秀作は～。
合点がい	結末の描き方に～。
機知に富む	～会話が楽しめる小説。
屈指	近年～の名作といえる。
傑作	私の知るSF映画の最高～。
傑出	描写の巧みさは～している。
秀逸	～な出来映えの彫刻。
珠玉	この作家には～の短編が多い。
鉅匠	老作家ならではの～の技。
出色	近年の映画の中で～の作品だ。
絶賛に値する	この絵の完成度の高さは～。
絶品	～としかいいようがない演奏。
卓越	～した技巧のピアニスト。
緻密	～に計算された構成。
的確	役柄に合った～な演技。
独創的	この小説の展開は～だ。
破天荒	～な試みとして評価したい。
万人受け	このドラマは～する内容だ。
非凡	色遣いに～なものがある絵。
比類ない	連作短編として～作品。
不朽の名作	～とよばれるにふさわしい。
簡に落ちる	主人公の行動の動機が～。
磨きぬかれた	～演奏技術と表現力を持つ。
名人芸	経験豊かな俳優による～。
申し分ない	この映画の音楽として～。
模範的	作家の師に見習いたい～な作品。
理想的	満足するほかない～な演奏だ。
穴がある	ストーリーの展開に～。
ありふれた	テーマが～ものにすぎない。
平凡	この絵はピカソの単なる～だ。
行きすぎ	斬新だがいくらなんでも～だ。
いただけない	最近の彼の作品はどうも～。
興ざめ	しゃべりすぎの主人公に～だ。
弦がない	ストーリーが平凡で～。
荒唐無稽	筋立てがあまりに～だ。
寂然とし	結末がどうにも～。
食傷する	よくある展開に～。
ずさん	やつぱり仕事の～な作品。
拙劣	俳優とは思えない～な演技だ。
粗雑	ニュアンスを欠く～なタッチ。
台なし	大げさな音楽で映画が～だ。
駄作	残念ながら～というほかない。
種拙	効果ばかり狙った～な演奏。
中途半端	テーマの掘り下げ方が～だ。
陳腐	いかにも～なストーリーだ。
月並み	映像が～で魅力に欠ける。
度を超す	表現の激しさも～と逆効果だ。
ばつとしない	最近の彼女の演技はどうも～。
独りよがり	主人公が～で共感できない。
不自然	新しい試みだが～に終わった。
来歴	若さゆえの～さがある。
もの足りない	悪くないが今一つ～。
紋切り型	～のせりふが多く工夫がない。
焼き直し	過去の作品の～にすぎない。

No.

20×20

興味を持たせるための工夫

生徒 D

この広告を見て一番最初に目に入るの
汚い字だらう。他の広告の機械的な字が多い
中でのこれはインパクトがある。そうして閱
覧者に興味を持たせ、より文を読ませる工夫
が見える。そしてその内容も特徴的だ。
一見はただの塾などの広告に見えるが、一
年金、きちんと払う、などと言葉がツナガッ
ていて、キャッチコピーでも分かる通り、実
は大人へ向けたメッセージになっていて。そ
う考えるとも汚い字にはむしろ一つの意図がある
ように見える。子供が書いたような字で、大
人の心により訴えさせようとしているのでは
ないだらうか。実に良く考えられている。
このように、この広告は作り手の柔軟な発
想が伝わってくる心を奪われる作品だと思う。
他の政治の広告は難しい印象があるのに対し
これは閲覧者に興味を持たせることができる
アイデアに富んだ作品だ。

小学一年生

A

メロスとセリヌンティウス

後	加	訪	動		リ	仲	か	ま	と	た	度	う		打	ス	村	最	こ
に	わ	わ	作	こ	に	間	聞	ち	い	た	く	え		た	と	に	初	の
差	か	人	者	の	関	に	こ	た	う	た	ず	い		れ	セ	一	に	物
目	る	も	は	よ	心	入	え	作	動	あ	れ	い		し	リ	度	、	話
し	。	然	表	う	し	れ	た	著	作	骨	か	い		ま	ヌ	帰	、	で
て	こ		現	に	て	て	い	者	を	ま	け	い		う	ン	た	セ	は
め	の	と	豊	作	い	く	い	は	つ	り	た	い			テ	い	リ	は
る	作	二	か	者	。	れ	う	。	け	合	情	あ			イ	と	ヌ	。
と	品	人	に	は		ま	文	聲	加	う	関	る			ウ	あ	ン	。
面	を	か	書	ま		い	や	衆	え	た	係	か			ス	る	テ	。
白	読	信	い	わ		か	。	の	て	付	を	。			は	が	イ	。
い	お	頼	て	り		い	。	中	表	で	直	。			友	こ	ウ	。
	と	し	る	の		と	。	か	現	なく	す	。			情	の	ス	。
	き	合	た	人		二	。	も	し	。	た				に	文	を	。
	は	て	め	物		人	。	。	い	。	め				競	で	置	。
	二	い	。	の		の	。	。	る	。	。				方	ほ	い	。
	人	る	。	言		友	。	。	。	。	。				。	。	。	。
	の	こ	。	葉		情	。	。	。	。	。				。	。	。	。
	関	と	て	や		が	。	。	。	。	。				。	。	。	。

作品の評価 ★★★★★

No. 12

二〇二〇年のライバル

生健三

ライバルは一九六四年という広告がある。前回の一九六四年のオリンピックの写真を、高度経済成長期であつたこの時代の象徴である、新幹線などの写真も使われている。東京オリンピックを成功させようという簡単な一言をこの広告は、五十六年前のオリンピックをライバルという奇想天外な考えで表しており、ライバルのこの日本人に笑顔を負けるななど、同じ国の今昔をまるで他国と対決しているかのように書くことで、見ている人を^の気持ちを高めてしまう。

当時を知らない人も先ほど書いたように、当時の象徴や当時の人物オリンピックの旗手、写真も使われているため、どんな人でも自然とやる気になつてしまう。

ライバルは一九六四年オリンピックの相手は外国だけではないのである。

選んだ広告

ライバルは一九六四年